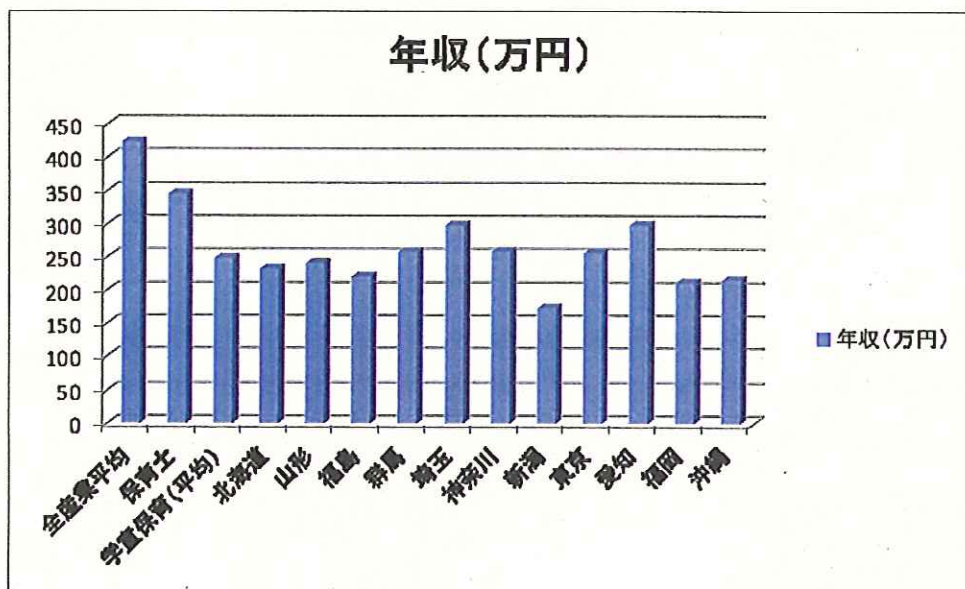


学童保育指導員の労働条件の実態

建交労全国学童保育部会調査

2016年学童保育春闘アンケート 2016年2月26日現在				平成26年度賃金構造基本統計調査(賃金センサス)								学童保育との差(年収)		
				企業規模10~99人(大卒30歳~34歳)				保育士						
勤続年数	基本給	一時金	年収(推定)	現金給与額(月)全産業平均				保育士				全産業平均(万円)	保育士(万円)	
	(万円)	月給(万円)	年収(万円)	勤続年数	基本給	一時金	年収(推定)	勤続年数	基本給	一時金	年収(推定)			
全国(平均)	10.1	17.7	35.6	248	5.8	30.4	58.1	423	7.4	23.6	61.4	345	-175	-97
北海道	7.8	16.4	35.2	232									-191	-113
山形	9.1	16.2	46.4	241									-182	-104
福島	7.7	16.5	22.5	221									-202	-124
群馬	10.8	17.2	51.3	258									-165	-87
埼玉	10.1	20.6	50.8	298									-125	-47
神奈川	10.1	20.2	16.4	259									-164	-86
新潟	9.5	12.9	18.3	173									-250	-172
東京	7.3	18.3	36.8	256									-167	-88
愛知	12.5	20.3	54.9	299									-124	-46
福岡	10.3	15.1	30.5	212									-211	-133
沖縄	8.7	15.5	29.7	216									-207	-129



学童保育指導員の労働条件は劣悪

- 学童保育は全産業平均(従業員10人~99人:大卒30歳~34歳)と比較すると、現金給与額(月)で13万円弱、年収で175万円も低い
- 保育士との比較でも月額6万円、年収で100万円ほど低い
- 地域間の格差も大きい(最高年収平均299万円~最低年収173万円)
- 2016年学童保育春闘アンケート(月給者)の「不安や不満」の項目(3つまで回答可)では、「賃金が安い」が67.3ポイントと突出して多い。次に「人手が足りない」が39.7ポイント、「休暇がとれない」が34.7ポイントとなっている。

出典:全日本建設交運一般労働組合